

「エネルギーと気候に関する主要経済国フォーラム（MEF）閣僚級会合」における議論要旨

本会合の参加者は、COP26 における進展を足がかりとして更に発展させる緊急性や、本年に必要なに応じて 2030 年の各国の排出削減目標（NDC）を再検討し、強化することの要請を含め、各国がグラスゴーで特定された次のステップを実行することの重要性を強調した。また、メタン、ゼロカーボン電力、ゼロエミッション車、森林減少等の分野における具体的で協調した行動の可能性について議論を開始した。

（1）セッション1：グラスゴーを土台として

【設定された課題】

- ・ 2030 年目標がパリ協定の気温目標と年内に整合的となるよう、求めることを含め、グラスゴーの成果を成し遂げるために各国が取っている、又は検討している追加的な取組。
- ・ 国内外において見込まれる主要な課題。

【参加者の主な発言】

- ・ ブリンケン米務長官は、開会挨拶において、COP26 において大きな進展を成し遂げたこと、COP26 は終着点ではなく、この決定的な 10 年において気候行動を加速させるための出発点であると発言した。また、ブリンケン長官は、今後「さらに踏み込んだ実施」（implementation plus）というアプローチを求め、各国やその他の関係者に対して、これまでに約束している目標・コミットメントを実施するとともに、気温上昇を 1.5 度以内に抑えるためにより一層取り組むよう呼びかけた。
- ・ ケリー米気候問題担当大統領特使は、米国が NDC 等の約束の達成に取り組んでいることに言及。また、課題に関する重要な一例として、協調して数兆円の投資を動員することの必要性を強調。さらに、石炭のフェーズアウトを加速させることの重要性及び緊急性を強調。
- ・ シャーマ COP26 議長（英国）は、パリ協定実施指針の完成、「グラスゴー気候合意」（CMP 決定）に言及し、同合意が、必要なに応じてパリ協定の気温目標に合わせ、NDC を強化するよう締約国に要請していることを指摘。また、各国は 1.5 度目標が「我々の手から滑り落ちる」ことのないよう、紙上の言葉を行動に移さなければならないと強調した。シャーマ議長は、主要経済国は、長期戦略の準備を含め、行動する特別な責任を負っており、グラスゴーの分野別イニシアティブを含め、主要経済国の協調した行動が脱炭素化のための最も効果的な方法であると指摘。
- ・ エジプト・シュクリ外相（COP27 議長）は、緩和と適応に関するグラスゴーの重要な成果と、首脳会合において反映された政治的意思を強調。COP27 に向け、エジプトは英国とともに重要な課題に確実に対処していくこと、非政府組織の重要な役割と貢献を強調。
- ・ エスピノサ UNFCCC 事務局長は、COP26 における政治的なモメンタムへの貢献と我々がなにをすべきか明確になったことを含め、今年を実施の年としていくことの重要性を指摘。また、COP26 が多くの行き詰まりを解消しており、そのような建設的な施政が COP27 に向けても必要と発言。実施の段階に移ったものの、パリ協定の全ての柱にまたがる国際協力は必要であり、MEF と G20 諸国は特別な役割を担っていると指摘。
- ・ セルウィン・ハート国連事務総長特別顧問（気候行動担当）は、「緊急性の状態」にあること

を強調し、主要経済国が石炭のフェーズアウトを最優先事項とするとともに、これを行う主要新興経済国を支援する連合体を作り、多国間開発銀行での立場を活用して民間資金の動員を増やすよう呼びかけた。

- ・ 島嶼国、後開発途上国（LDC）、その他の脆弱国の代表は、積極的に排出削減を図り、彼らの置かれた特別な状況や課題に対処しなければ、悲惨な結果になることなどを強調。

【議論の概要】

- ・ COP26 が、パリルールブックの完成やグラスゴー気候合意の採択を含め、1.5 度目標を達成するための実質的な進展を遂げたという点でおおむね一致。同時に、参加者は、国内及び国際的な実施と加速化の必要を認識。参加者は、気候変動政策の主流化、カーボンプライシングの推進、ネットゼロ目標の採択・実施、エネルギー効率向上のための取組、様々な部門（運輸等）の脱炭素化、国のメタン削減計画、国際炭素市場への参入準備、グリーン水素の開発・使用の促進インセンティブの創出等の取組について、最新の情報を共有。また、国内及び国際的なレベルでの適応への取組についても言及。
- ・ 課題として、技術的な研究開発とより迅速な普及の必要性、化石燃料補助金の削減、ネットゼロへの移行に必要な資金調達のための民間部門との緊密な連携、国際的な金融アーキテクチャーの発展、労働者やコミュニティにとっての公正な移行、山火事等の国特有の課題、森林や、資金調達へのアクセスの改善等を含む国際的な支援の必要性が挙げられた。

（2）セッション2：協調行動のための選択肢

以下の4つの分野における潜在的な協調の可能性に関して予備的な提案がなされた。

- COP27 までの国別のメタン行動計画の策定の検討
- 農産物のサプライチェーンから森林減少を取り除くための国内政策に関する対話
- 2030 年までに新規に導入される電力容量に占める、ゼロカーボン電源の割合の MEF 全体の集合的な目標の設定
- 2030 年の小型車の新車販売台数に占める、ゼロエミッション車の割合の MEF 全体の集合的な目標の設定

これに対して、参加者からは各国が行っている取組などを含め、様々な見解が示された。また、海運セクターも MEF 加盟国にとって重要であると指摘された。

ケリー特使は、各国に対して追加の意見提出やクリーン技術のイノベーションの加速など協調行動の可能性に関する新たなアイデアの共有を呼びかけた。

（3）閉会

ケリー特使は、COP26 は気候変動対策にとって重要な 10 年の始まりに過ぎないことに繰り返し言及しつつ、主要経済国が今年以降、気候変動の目標やコミットメントをどのように実行し、拡大していくのか、世界が注目していると述べた。そして、「地球上の誰もが我々に期待している」と締めくくった。

○参加者一覧

アンティグア・バーブーダ	モルウィン・ジョセフ大臣
アルゼンチン	ファン・カバンディエ大臣
オーストラリア	アンガス・テイラー大臣
バングラデシュ	ハビブン・ナハール副大臣
ブラジル	ジョアキム・アルヴァロ・ペレイラ・レイチ大臣
カナダ	スティーブン・ギルボ大臣
中国	解振華特使
エジプト	サーメハ・シュクリ大臣
EU	フランツ・ティーマーマンス欧州委員会筆頭上級副委員長
フランス	ステファン・クルーザット気候特使
ドイツ	アンナレーナ・ベアボック大臣
インド	ブペンドラ・ヤーダブ大臣
インドネシア	ルフット・ビンサル・パンジャイタン大臣
イタリア	ロベルト・チンゴラーニ大臣
日本	山口壯環境大臣
韓国	キム・ボビョン副大臣
マーシャル諸島	キャステン・N・ネムラ大臣
メキシコ	マーサ・デルガド・ペラルタ次官
ロシア	ルスラン・エデルゲリエフ特別代表
サウジアラビア	アブドルアジーズ・ビン・サルマン・アール・サウード大臣
セネガル	アブドゥ・カリム・サル大臣
トルコ	ムラト・クルム大臣
英国	アロック・シャーマ COP26 議長
UNFCCC 事務局	パトリシア・エスピノサ事務局長
国連事務局	セルウィン・ハート特別顧問

○議長サマリー（英語）：

<https://www.state.gov/ministerial-meeting-of-the-major-economies-on-energy-and-climate-chairs-summary/>